

## 年頭の「あいさつ」



飯舘村長  
菅野 典雄

あけましておめでとうございます。  
心身ともストレスがたまる避難生活が続いており、状況はそう変わってはいませんが、今年はいくらかなりとも「おめでとう」といえる気持ちになられた方がおられるでしょうか。一人でも多くの方に新年を祝える心境になつてもらいたいという思いでいつばいず。

昨年の一年間、村は村民の思いに寄り添い、国や東京電力と必死に向き合ってきました。しかし皆さんにとってはまだまだ物足りないことでしょう。本当に申し訳なく思っています。

村としては他の自治体よりいち早く避難区域の見直しを終えました。これにより、村の中にくらかの動きと賠償問題を進めることができました。村内での一部事業所の操業が許可されたり、一括賠償などが進みつつあります。本格除染についても、多くの課題があり全くの遅

まきですが、スタートさせました。復興計画も第2版から第3版への取り組みに入っています。中学校舎も完成し、生徒たちに喜ばれています。内部被ばく検査等も独自の体制がとれるようになっていきます。

これらは全て議会を始め村民の皆さんに、この災害から少しでも早く立ち直ろうと前向きに対応してもらっているからこそこのことでもあります。改めて心よりお礼申し上げます。

今年もあらゆる努力を払い、一歩二歩と進んでいかなければと考えているところです。まず、本格除染が手抜きにならないようにしなければなりません。賠償問題もこれまでより一層村民に寄り添う賠償を求めていかねばなりません。「帰りたい方も帰れない方」「帰りたい方へ」、それぞれ具体的な施策を示していかねばなりません。1700が3100世帯になつてしまった村民の健康や生活支援への対応、教育環境や内容の充実も進めていかねばなりません。そのほか、いかなる課題にもひるむことなくしっかりと対応していく覚悟です。

古代ギリシアのアテネでは、市民になる時、誓約をさせられていたという話を聞きました。その誓約文とは「私たちはこの都市を引き継いだ時よりも損なうことなく、より良く、そしてより美しくして次世代に残します」というものだったそうです。この言葉、国に強く求めていかなければなりません。私たちが心の中にとどめておきたい言葉だと思っています。

今年もさらなるご協力を切にお願いし、新年のあいさつとします。

## 年頭の「あいさつ」



飯舘村議会議長  
佐藤 長平

ふるさととは 遠きにありて 思うもの

ふるさととは 近きにありて 思うものかな

このことは 三十一文字で 語りつくせぬ

えさせる避難生活を強い責任を、議会人として誠に申し訳なく思っているところです。

表題の詩は、室生犀星という詩人の「ふるさととは 遠きにありて 思うもの」で有名な詩の一部を借りて、全村避難のふるさと飯舘村を詠んだものです。

ふるさと飯舘村で起きた、原子力災害に被災したこと、全村避難するまでに起きたこと、避難生活で起こったことなど、三十一文字で語りつくせぬ出来事がいっぱいありました。

しかしながら、あのととき起きた出来事を語り継ぐことが、原子力災害に被災した飯舘村の風化（人々に忘れ去られること）を防ぎ、復興支援の輪を広げる効果があると考えます。また一方、復興と再生に関する難問に対して、粘り強く交渉し前に進める努力も大切です。

「除染なくして復興なし」の目標を掲げた本格的除染が始められ、「村に戻りたい人」「戻らない人」「しばらくは戻れない人」それぞれに寄り添う復興計画が定められ、議会でも実施計画の細部を審議しているところです。

特に今年には、本格除染の2年目であること、財物賠償が始まることなどによつて、さまざまな問題が発生すると思いますが、議会としても村民のために一歩一歩前に進めてまいりたいと思います。

村民の皆さんには、今年一年つらい避難生活の中でも平安に暮らされますようにご祈念を申し上げます。新年のあいさつとします。

新しい年が明けても、あの忌まわしい大地震と大津波で多くの犠牲者を出し、併せて発生した原発事故により、飯舘村は計画的避難区域に指定され、全村避難の憂き目にあつたことを私たちは決して忘れてはなりません。さらに、避難先の狭い借り上げ住宅や仮設住宅に暮らして、二度目の寒い冬を迎えましたが、村民の皆さんには耐えがたきを耐